

# 佐藤社長の欧州出張特集

2015年3月1日~15日

[カント TOP ページへ戻る](#)

3.1 (日) 12:55 羽田空港出発 (ルフトハンザ・ドイツ航空 715 便)  
17:00 ミュンヘン到着→(ルフトハンザ・ドイツ航空 2480 便にて)→  
19:30 ロンドン・ヒューズロー空港に到着

3.2-3

## ロンドンにて

### (1) 錦鯉関連 (イギリス)

弊社が温浴施設、プール用の濾過機を仕入れている英国の会社からの情報で、近年“K O I” (錦鯉) の養殖池用の濾過機の輸出が好調、とのことで興味があるなら専用濾過機メーカーとそれを使って養殖をしている業者の現場を案内してくれる、との誘いで見学。羽田を発つ直前に日本の養殖で有名な山古志村を見学した。



10年位前の中越地震で大被害を受けたところ。今はスッキリ回復。錦鯉の業界の現状。全取引の90%以上が輸出とのことでビックリ、毎年東京で開催される展示会には文字通り世界各国から関連業者が来場する由。専用の月刊誌もある位の業界。



世の中知らないことばかり、、、

写真に“NISHIKIGOI”とある英国のブリーダーに訊いた：これまでに一番高く売れた鯉はいくらぐらいか？  
なんと、500万円位！との答え。鯉になりたい位、です！



ガーディニングは英国が本場、庭に一部に池を作りそこで自慢の鯉を飼ってご満悦、友人知人同じ趣味の人にみせる。品評会へも参加、ETC.

英国産の関連機器が世界各国に出だしているとの事で日本向けにどうかと誘われたしだい。出発前に山古志村で見た設備は当然の事ながらすべて日本製。難しいが打診してみたい。

3.4

19:05 ロンドン (LHR) 出発 (Vueling 航空 7297 便にてビルバオへ)  
21:55 ビルバオに到着

3.5

### (2) B I L B A O、Spain

傘ポン (KASAPON) の欧州向けの輸出総代理店をしている弊社のスペインの代理店の社長、営業部長との写真。

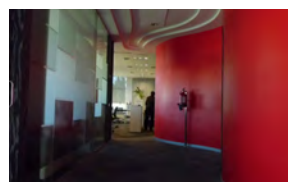


傘ポンポスター



傘ポン 欧州総代理店社長と営業部長と

広々としたスペースがうらやましい。スペイン語のカタログも新たに作成してくれて、拡販に努めてくれている。スペインは失業率が欧州域内でも高い方で特に若年層は約50%が失業。前回訪問した折は(5年くらい前) 同じ母国語を話す中南米からの出稼ぎ労働者が多かったが、今は本国のほうが相対的に景気が良いので帰国したひとが多いそうだ。



傘ポン総代理店社内



傘ポン総代理店社長と会食

17世紀ごろの建物を転用したレストランで会食  
当地、BILBAO はスペインの中でも特に食事が旨いので有名。

18:05 ビルバオ出発 (Vueling 航空 1441 便にてバルセロナへ)  
19:10 バルセロナに到着

## 3.6

### (3) Barcelona, Spain

特殊ホースのメーカーで、カント設立以来の仕入先。社長、輸出部長と会食。スペイン料理は何をたべても美味しい！



特殊ホース仕入先社長と営業部長と会食



特殊ホースメーカー輸出部スタッフ

## 3.7

11:00 バルセロナ・サンツ駅 (AVEにてマドリッドへ)

14:53 マドリッド・アトーチャ駅 (マドリッドにて乗り換え、TALG0278にてリナーレス・バエサへ)

17:56 リナーレス・バエサ駅

## 3.8

### (4) Linares, Spain

オリーブの産地では世界トップ。オリーブ油の輸出の中心地。昨シーズンはオリーブの害虫で大被害、玉不足で業界は大混乱。拓大の先輩がオリーブ王を目指して10年くらい前から日本向け、を含めて各国へ輸出中。

小泉先輩は卒業後すぐに南米にわたり、約30年貿易に従事、一時日本に帰国数年間スズキ自動車のスペイン、国営自動車メーカーのサンタナ社との提携に関わり、サンタナ社を重役待遇で退職後リナーレスに留まり、オリーブ油の輸出に専念。プール付きの優雅なマンションのご自宅でご家族の皆さんと会食。



スペインのリナーレス市、小泉先輩ご自宅で会食

19:00 リナーレス・バエサ駅出発 (TALG0279にて)→マドリッド・アトーチャ駅到着

## 3.9

17:05 マドリッド出発 (ルフトハンザ・ドイツ航空 1115 便にてフランクフルトへ、到着後乗り換え)

21:50 フランクフルト出発 (ルフトハンザ・ドイツ航空 1256 便にてオーストリアのリンツへ)

22:50 リンツ到着

## 3.10

### (5) オーストリア Linz 市

これまた、特殊ホースメーカーでカント設立以来の仕入先。工場見学、新製品の商談の合間に鹿肉が有名なレストランで会食。10月から12月まで狩猟が解禁され地元の猟師がレストラン鹿肉を売りに来る由。



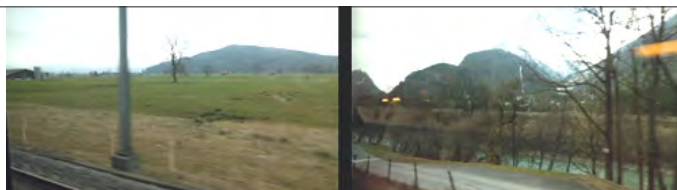
オーストリアの特殊ホース仕入先と会食、鹿肉料理

## 3.11

06:47 リンツ中央駅  
(列車にてチューリッヒへ)

13:34 チューリッヒ中央駅出発  
(チューリッヒにて乗り換え、TGVにてパリへ)

17:38 パリ・リヨン駅到着



リンツからパリまでの列車の車窓から

## 3.12

### (6) Paris

有名なシャンゼリゼの大通りのど真ん中のビルの一階にショップを構えている得意先を訪問。弊社が輸出総代理店をしている、ファースト電子開発社の特殊電子機器を長年扱ってくれている。半年程前に社長さんが亡くなり今は写真に写っている娘さんが実質的に会社を切り盛りしている。

商談を済ませ、シャンゼリゼのカフェで一休み。

さすがに世界のシャンゼリゼ、いろいろな国の言葉が聞こえてくる。となりのテーブルの若いマドモアゼルがたばこのライターを貸してくれ、とのことで話しかけてみるとトルコから二人で観光に来ているとのこと。観光客で目立つのはやはりごたぶんにもれず、中国人の団体サン。



シャンゼリゼ通りど真ん中のビル内ショップ



シャンゼリゼのカフェで一休み

19:59 パリ・リヨン駅出発 (寝台特急ユーロナイトにてミラノへ)

06:00 ミラノ中央駅到着

**(7) イタリア、Milano 市**

パリから夜行寝台車で長旅。パリを夕方の7時ごろ出発。個室の一人用のコンパートメントなので気が楽。食堂車もついているのでのんびり夕食を取る。

ミラノへ一時間遅れで朝7時着。車内が一切禁煙だったので、ミラノ駅についてホームで一服していると赤帽さん（どうも私設赤帽さんらしい）が近寄ってきて荷物を運ばせてくれ、との営業を受ける。ミラノのホテルは定宿(?)のホテルミケランジェロ。歩いて3から4分位のちかいところ。赤帽さんのカートでも行ける距離。交渉成立。たばこを吸っている間、ホテルまでの極短時間だったが、会話が面白かった。

チュニジア出身者で3~4年前の例の“アラブの春”が始まった国だが、独裁政権を嫌い、国を飛び出し出稼ぎに来てりるが思うような仕事にありつけないで苦勞している由。多分不法入国者だろう。彼は大学で物理化学分野の勉強をしていたのでできればフランスの大学へ行きたい言った。このイタリアの大学へ行けばよいではないかと突っ込むと、イタリアは音楽、美術等芸術面ではすぐれていると認識しているがサイエンスの分野はフランスでなければならない、云々。それがチニジュア人一般的な認識なのかどうか？

彼の写っている写真にミラノ駅のホームに備え付けてあるゴミ箱がある。昨年11月にブラジルでとった写真にも色分けがしてあった。イタリアは、ホワイト=紙類、ブルー=アルミ(缶)、イエロー=プラスチック類グリーン=その他のゴミ類

弊社のイタリアの Rep.DR.Manini と会食。

打ち合わせが済み今回の出張の実質的な仕事は完了。

海産物が美味しいレストラン兼ライブハウスで打ち上げ。好きなカンツオーネを数曲リクエスト、興に乗り、弾き語りの彼女とベッサメムーチョを二人で歌った。



イタリアの弊社 Rep の Dr Manini と海産物料理を堪能



ライブハウスの弾き語りとベッサメムーチョを歌う



ミラノ市内の古城を利用した大型 S e mpione 公園入口



パリから夜行寝台車でミラノに朝7時着



ミラノ駅赤帽さんの隣のごみ箱に注意、白は紙類、黄色はプラスチック類、青はアルミ缶類、緑はそのたのゴミ類

ところで、彼は敬虔なカトリック教徒ならぬ、熱心な創価学会員。ミラノ市の一区域の支部長、との事。イタリア全土に約5万人会員がいる由。ミラノには立派な会館もでき、会員は着実に増えているとのこと。

ミラノ (MXP) 出発

**(8) ドイツ、Dusseldorf 空港の建物の外側。**

ミラノから帰路、Dusseldorf 経由でアイスランドのレイキャビックへ行く予定であった。温泉で有名な BLUE LAGOON で温浴施設の現場を見学し体験するのも弊社の仕事の守備範囲。

残念ながら、天候が悪くフライトがキャンセルになったので2日繰り上げ帰国。6時間も乗継便待ち。その間、一時建物の外に出て一服。清掃人が数人いた。時間つぶしに話しかけてみた。

トルコ人とのこと。ドイツには下級労働者として、ギリシャ、トルコ、東欧圏等からの移住者が多くいることは見聞していた。ドイツ経済の強さを支えている一面でもある。反面、社会問題を起こしていることも確か。

特にトルコ人の増加がドイツ政府にはコスト面を含めて負担が大きいらしい。アメリカの一部の州で行われているような、中南米からの移民が多くなってスペイン語で公立学校の授業をスペイン語で行うのと同様、トルコ人子弟のためトルコ語での学校教育もトルコ人地区では行わざるを得ない状況になっているようだ。

ここでもゴミ箱発見。ドイツ的?なデザイン。ご覧のとおりメタリック調であった。

ドイツ Dusseldorf 空港内ゴミ箱、メタリック調で色ナシ、文字での分類表

